



慶應義塾大学ビジネス・スクール

小熊株式会社 —田中事業部長の試み—

5

小熊株式会社の田中事業部長は、担当する B 事業関連の先月経営数値の結果を見ながら考えた。

10

「毎月、経営数値を社員に示して細かく結果や今後の戦略を説明することは社員に、そして業績にどんな影響を与えていくのだろうか？」

この 1 年の彼の試みを思い出し、今後どのようにすべきかを考え始めた。

15

小熊株式会社の概要

小熊株式会社（以下小熊と略）は、明治に創業した歴史ある上場企業である。主に水回りのシーンで利用される日用雑貨を常に開発してきた。

2009 年 12 月 31 日における資本金は約 350 億円、従業員数は連結で 6 千名弱、単独で 2500 名であった。生活密着型の製品群は、第 1 事業と第 2 事業に分けられ第 1 事業は全体売上の 42.5% を占め、一方 B 事業が含まれる第 2 事業は全体の 49.8% を占めていた。

20

25

.....

本ケースは慶應義塾大学商学部 横田絵理・埼玉大学経済学部 末松栄一郎および学習院大学経済学部非常勤講師榊原健郎が、クラス討議のために作成した。本ケースの企業名および事業については仮設であるが、その内容は、2009 年 11 月～2010 年 3 月までのインタビュー調査および公開資料を基に作成されている。インタビューにご協力いただいた企業の皆様にはこの場を借り、謝意を表する。本ケースはクラス討議の資料とするもので、経営およびリーダーシップの適否を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 横田絵理・末松栄一郎・榊原健郎（2014 年 12 月作成）